



全国レベルの強豪校を訪ねて

【春日部共栄高等学校】野球部



もう一度
甲子園に出て
全国制覇したい!

「お前はそれでいいのか?」
部員に問い、自主性を育てる

昭和55年の開校と同時に創部した春日部共栄高等学校の野球部は、これまで7回甲子園に出場。平成26年の夏の甲子園で、センバツ優勝校を破った同校ナインの勇姿は記憶に新しい。

1年生のときにその試合に出場し、現在キャプテンを務める関谷将貴(せいか)さんに、強さの秘訣について聞いてみた。

「練習は厳しくやって、試合は楽しくやろう」という監督の言葉が実践できているからだと思います」

試合で楽しい気持ちになるために、普段はとことん練習をしようというスピリットが部員たちに浸透しているのだ。

創部以来、部を率いているのは名将本多利治(としぢ)監督。常日頃から、指導の中で大切にしているのは自主性の育成だという。

「人は強制的にやらされている限り、大きな進歩はありません」

自主性を育てるために、本多監督は常に部員にこう問いかける。

「お前は本当にそれでいいのか? 考えてみる」「自分の練習で足りないところはどこだ? 考えてみる」

まずは、自分で考えさせ、「わからなければ、聞きに来い」と加える。

全体練習が終わった後、多くの選手がグラウンドに残り、自主的



関谷キャプテン



平日は月曜日を除いて毎日放課後に練習があり、土日はオープン戦。全員での練習時間終了後も残って自主練習をする部員も多い。野球部では練習時間以外の日常も自分で考え、行動することが求められている。



休み時間や始業前の時間を使って集中的に勉強する部員。



「明るく・楽しく・元気よく」
試合をするため、とことん練習します！

甲子園に出て
愛する春日部の
名を広めたい！

「飲食店は続けることがとても大変。でも共栄野球部で『あきらめない』ことを教わりました。開店以来8年の間には苦しいときもあったが、こうしてお店を続けられているのは、高校時代に培われた忍耐力と考える力のおかげです」
本多監督の指導は、野球の試合だけでなく、社会の荒波に打ち勝つ人間形成にも、大いに役立っている。



「レストランは共栄高校生徒の親御さんにも多く利用いただいています」と、OBの根岸さん。

「飲食店は続けることがとても大変。でも共栄野球部で『あきらめない』ことを教わりました。開店以来8年の間には苦しいときもあったが、こうしてお店を続けられているのは、高校時代に培われた忍耐力と考える力のおかげです」
本多監督の指導は、野球の試合だけでなく、社会の荒波に打ち勝つ人間形成にも、大いに役立っている。

監督としての長年の経験に裏打ちされた一言一言は重く、部員たちの心に深く響く。出身者を見ると、プロ野球選手を多く輩出している一方、さまざまな分野で活躍する人が少なくない。
平成5年夏の甲子園で準優勝を果たした当時の部員で、現在イタリアンレストランを経営する根岸要さんはこう語る。

に練習を続けるのは、自分で考え行動することが身につけているからだ。また、日常生活での行動と野球をつなげることも重点を置く。
「50分の授業に集中できなければ、2時間の試合は集中できません。普段の生活からきちんとすることで、ちゃんとしたプレイにつなげていく、と言っています」



本多監督